

平成31年度 東久留米市立第六小学校 学校評価報告書

学校教育目標	<p>○考える子 ○助け合う子 ○元気な子</p>	教育ビジョン	<p>【目指す学校像】子供の幸せを育む学校～今を輝き、明日の笑顔を創る～</p> <p>【目指す児童・生徒像】認め合い、助け合い、高め合う児童</p> <p>【目指す教師像】子供への愛情にあふれ、力を合わせ、創意工夫して学び続ける教師</p>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>【成果】◇落ち着いた温かい支持的風土の学年・学級集団の形成 ◇児童の基本的な学習習慣・学習規律、規範意識の定着 ◇よりよい学校生活を目指して児童が主体的に行動しようとする意識の向上 ◇地域の人材や環境を生かした体験的活動の推進 ◇外国語活動の授業研究の推進</p> <p>【課題】◇基礎学力の定着 ◇特別支援教室との連携による個に応じた指導の推進 ◇市研究奨励校として外国語、外国語活動の授業研究の推進 ◇オリンピック・パラリンピック教育の推進 ◇持続可能な教育活動のための校務改善</p>		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(平成33年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	市教育委員会人権行動指針に基づき、自他を大切に。差別や偏見を許さない豊かな人権感覚を育てる	道德の時間やふれあい月間を通していじめや暴力、差別や偏見を許さない人権感覚を育てる	相手のことを考え、相手を傷つけるようなことをしない気持ちを育てる	「暴力や相手を傷つけることはしていない」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.3	A 3.59	B 3.46	・この項目の評価点が高いことは素晴らしい。 ・日常会話の中にも相手を思いやる心が自然に出てくるよう配慮してほしい。	道徳の時間やふれあい月間を通して、いじめや暴力、差別や偏見を許さない心を育てる。相手を尊重する言葉遣いや、暴力・暴言を許さない指導を徹底して行う。道徳や生活指導を通して、思いやりと人権尊重について定期的に取組を続ける。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童が互いに認め合い、児童と教師が信頼し合う豊かな人間関係を育み、規範意識や思いやりの心を育てる	「六小6つの『あ』(あいさつ、集まり、安全、後始末、アイデア、相手意識)を指導し、基本的習慣や規範意識を育てる	「六小6つの『あ』」の指導を徹底する	「六小6つの『あ』を守っている」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.3	B 3.47	A 3.6	・児童自身が意識をもって取り組んでいることは大変素晴らしい。 ・あいさつは「なごみの言葉」。最も徹底して校外外で取り組んでほしい。	入学当初から「六小6つの『あ』」の指導を行い、全校で徹底を図る。生活指導の月目標や週目標と関連させながら繰り返し指導を行い、基本的生活習慣と規範意識を育てる。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ対策防止委員会によるいじめの実態把握と早期発見・対応を組織的に行うとともに、いじめ防止のために自ら行動できる児童を育てる	児童アンケートやスクールカウンセラーの活用によつていじめの早期発見、対応を組織的に行うとともに児童会を中心にいじめ防止活動を展開する	いじめ防止、対応の徹底により、児童が安心できる環境を作る	「学校はいじめがなく安心できる」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.7	B 3.23	B 3.41	・今後も児童自身による取組を継続してほしい。 ・児童が「学校は安心できる」と当たり前に答えられる学校作りをしてもらいたい。	校内いじめ対策防止員会によるいじめの早期発見と組織的対応を図る。道徳でいじめ防止を取り上げるとともに、児童によるいじめ根絶の活動を継続する。教員やスクールカウンセラーによる相談体制を充実させる。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	補充的な学習を計画的に実施するとともに、授業における「めあて」と「振り返り」を行い学習内容の確実な定着を図る	朝のドリルタイムや放課後タイムで補充的な学習を実施し計算力等の基礎学力の定着を図るとともに、作文タイムで書く力を伸ばす	朝の作文タイムで短作文指導に取組み、15分間で200字程度の短作文が書けるようになる	15分間で200字程度の作文が書ける児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.2	A 3.56	B 3.41	・読む・書くは基本である。物事を聞いて記録する習慣を徹底して教育してほしい。	授業の中で「めあて」の明示と「まとめ」「振り返り」を行い、学習内容の確実な定着を図る。東京ベーシックドリルを活用し、朝のドリルタイムや放課後タイムで数と計算の定着を図る。短作文指導を継続し、自分の考えをまとめて書く力を身に付けさせる。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力の育成を図る	児童の主体的な学びのある授業を目指して対話的活動を設定し、思考力、判断力、表現力を育てる	授業の中で、対話や学び合いの活動を実施する	「すすんで考えたり発表したりできた」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	C 3.1	B 3.29	B 3.28	・児童評価が昨年より向上したことは評価できる。今後も更なる授業内容の充実に向けてほしい。 ・児童と教師の対話を取り入れ、楽しく飽きさせない授業を。	児童が自ら「問い」をもち、主体的に追究できるよう指導を工夫する。児童同士の対話や教師との対話、教材との対話など様々な対話活動を通して児童が思考力や表現力を高めらるよう工夫・改善を図る。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	個々の児童の興味や関心に基づく自主的な学習を奨励して学習意欲を高め、家庭での学習習慣を身に付けさせる	学年の発達段階に合った課題を与えるとともに、自主学習を奨励し家庭での学習習慣を育てる	各学年で家庭学習の課題を出すとともに、3学年以上で自主学習を奨励する	「宿題や自主学習の提出をがんばった」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.2	C 3.12	C 3.06	・自主学習の必要性が児童や保護者にだけ理解されているか疑問である。 ・家庭学習の評価を具体的にを行い、学習意欲を増す努力を。	各学年で発達段階に応じた家庭学習の課題を与えるとともに、3年生以上で自主学習を奨励する。家庭学習・自主学習の努力や成果を評価し、校内で掲示するなどして意欲を高める。保護会等で意義を説明し家庭の理解と協力を得る。
7	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	英語教育と国際理解教育の推進	新学習指導要領に則り外国語、外国語活動の授業を通して外国語によるコミュニケーションの素地や基礎となる資質・能力を育成する	外国語によるコミュニケーションの基礎的な資質や能力を育成し、すすんでコミュニケーションを図る態度を育む	新学習指導要領に則り、児童も教師も共に楽しく学ぶ外国語・外国語活動を実施する	「外国語や外国語活動の授業は楽しい」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.3	B 3.39	A 3.56	・児童にとって大変有意義な取組である。予算等の課題もあるかと思うが引き続き取り組んでほしい。 ・英語は言葉であるとの認識が必要。話すことができるのは楽しい会話ができるという方向でアプローチしてはどうか。	低・中学年で外国語活動、高学年で外国語を指導する。市の指導計画と校内研究で取り組んだ成果をもとに各学年で教材や指導法を工夫し、児童が楽しみながら外国語の力を身に付けられるようにする。
8	III 教育環境の整備	体験的な活動	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の人的、物的資源を活用した体験活動の充実を図り、地域社会の一員としての自覚と地域に対する愛情を育てる	各教科等の指導計画に基づき、地域人材や地域の特色を生かした体験活動を取り入れた効果的な授業を実施する	各学年で年間1回以上、地域資源を生かした授業を行う	「学校は、地域の人材や特色を生かした活動を行っている」と答えた保護者 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.8	C 3.09	B 3.3	・保護者に希望する体験学習のアンケートを行ったり、企画運営に参加してもらうなど当事者意識を促進してみたらどうか。	各学年で地域の自然や施設、人材等の地域資源を活用した体験的な活動を行い指導効果を高める。授業公開や学校だより等で活動状況を伝えるとともに保護者にも参加、協力を求めて一層の理解を得られるようにする。
9	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	特別支援教室(すずらん教室)、難聴言語学級(ことば・きこえの教室)と通常学級の教員が連携して特別支援教育を推進する	特別支援校内委員会、生活指導部会を計画的に実施し、特別な支援を要する児童への個別支援の充実を図る	特別支援校内委員会を中心に、特別な支援を必要とする児童に対する個別支援の充実を図る	「個に応じた特別支援教育が行われている」と答えた保護者 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.5	B 3.28	A 3.53	・教員間の連携が行われていることは大変素晴らしい。引き続き取り組んでほしい。	特別支援教室、難聴・言語学級と、通常学級の教員が連携し、早期に特別支援の必要性を見出し、校内委員会で支援策を検討して特別支援に繋げる。教員同士の情報交換や授業支援を密に行って個々の児童のニーズに則した支援を充実させる。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	4×4の取組	4×4の取組	2020年東京大会を見据えてオリンピック・パラリンピック教育を充実させるとともに、東京大会のレガシーを受け継いでいく意識を育てる	各教科や領域で4×4の取組を意識した活動を行い、スポーツ志向、障害者理解、日本人としての自覚等の「5つの資質」を養う	児童と教員が、4×4の取組を意識して活動を行う	「オリンピック・パラリンピックについて学んだ」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.2	C 3.02	B 3.3	・パラリンピックの意義について理解を高めてほしい。障害者とともにスポーツを楽しむ機会を増やし、障害者との共存共栄を。	2020東京オリンピック・パラリンピック開催年を迎え、夏の競技観戦が一層充実した体験となるようにオリ・パラの精神やスポーツについて学習を進める。大会終了後も振り返りを通して大会のレガシーが継続されるように取り組む。
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	教員が、持続可能な教育活動意識してカリキュラムマネジメントや校務改善に取組み、ライフ・ワーク・バランスの改善を図れるようにする	教員がワーク・ライフ・バランスを意識して校務改善に取り組めるようにする	週の平均労働時間を60時間以内にする	週の平均労働時間を60時間以内にした教員 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	C 3.0	C 3.0	C 3.08	・少しずつでも教職員の負担は確実に軽減してもらいたい。 ・効率の良いサポートの選択や教員数を増やすことで負担軽減を図れないか。	時間講師やスクールサポートスタッフを活用し、勤務の負担軽減を図る。教員各自が勤務時間を意識し、カリキュラムマネジメントや校務の見直しを通して効率化と省力化に取り組む。